

地域社会デザイン学 資料

鈴木秀顕

地域社会デザイン学体系のフレームワーク

□ 木を見て、森を見るための学問体系

基本的に、あらゆる失敗からの学び、原点を見つめ直す。

(経済) 社会の失敗
教育学問の失敗
コミュニティづくりの失敗
：

社会科学 (新経済学) + 自然科学

目指すのは、21世紀型の科学学問体系
(人類が継続していくための学問体系)

プロジェクトマネジメントを援用し、学問体系を構築。

失敗や間違いや疑問を認知することから始まる。

まずは 経済成長志向経済学の失敗

経済的に起こっている社会現象

今まで進めてきた社会像

(お金を儲けたい人は、ここを探り、そこに向かうと大金持ちになれます。)

ちなみに、アベノミクスは、この形を進めようとしています。一獲千金型。それゆえ、大金持ちはより大金持ちに。そうでない人は、お金を取られる側に。

集金システムが機能し、お金がどこかに集中する競争社会

効率化が進められ、今までとは違う形の無駄が増えてきた。

少しずつ進んできている社会像
(正直者が報われる社会。人生を幸せに過ごしたい人は、ここを探り、そこに向かうと幸せになれます。)

ちなみに、この形は、ハイブリッド型。
一様の形にはこだわらない。多様化が認められ、○か×かではない。

もったいない思想
システムが機能し、
富が公平に分配され、
お金の振り回されない協創社会

(社会動向を含めた)
自然界の動向に傾聴、
観察し、その動きの中
から見えてくる無駄を
省く

本来の社会科学的思考

人が自然界の頂点に
おり、自然界をも
コントロールな存在
として捉えた考え

技術工学的思考

人間の経済活動をシンプルに思考する (財の経済循環)

(金は) 天下の回り物

資本で資源（素原材料）を購入。
(もしくは、見つける。)

資源
(素原材料)

価値を加える
(ここが働くところ)

生産

財・商品
(素原材料+付加価値)

(労働力の供給)

商品を買う。
儲けとなる。

(労働力の供給)

労働者

(給料)

消費

財を生み出す
根本要素

経済成長志向経済学は、効率を重視し、分業・分配を柱に考えられている

財の経済循環から見える問題点

経済の目的：

（語源）経世済民（けいせいさいみん、経世済民）とは、中国の古典に登場する語で、文字通りには「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」の意。



豊かな生活を求め、実現するため。

財（物質的・精神的に何らかの効用を有するもの）の経済循環から見える問題点：

（この部分が無視されている。）

資本で資源（素原材料）を購入。
（もしくは、見つける。）

資源
（素原材料）

問題点

資源（素原材料）そのものは
開発できない。

→そのために、お金で購入。

（見つけるにしても、お金をかける。）

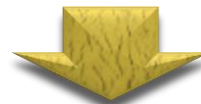
→お金が中心の経済学

財の形（生活の豊かさをもたらしてきたもの）

現代文明は電気エネルギーや資源を活用して、
多くの財を生産してきた。

Ex) プラスチック・合成ゴム・アスファルト・食品関連・化粧品・液化石油ガス・電気

そこから進展してきた理論



マーケティング

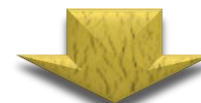
定義：財の生産と循環を実現すること
≡ 売れ続ける仕組みづくり

生産志向

ここから

社会は変化していている

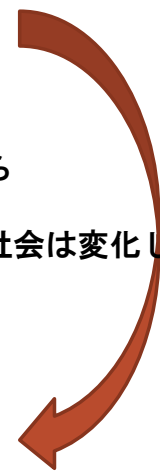
ここへ



サービスマーケティング

定義：（顧客が受ける）ブランドメッセージを形作ること⁶

顧客志向

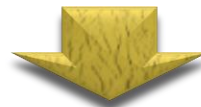


財の形（生活の豊かさをもたらしてきたもの）

財の経済循環から考えると、その財は地域外に潤沢に資源がある場合にのみ生産可能。

経済学本来の姿（経世済民）から考えると、中心に考えるべきは【生活の豊かさ、人々の幸福】

人が中心の経済社会（人が住み続けられる社会）



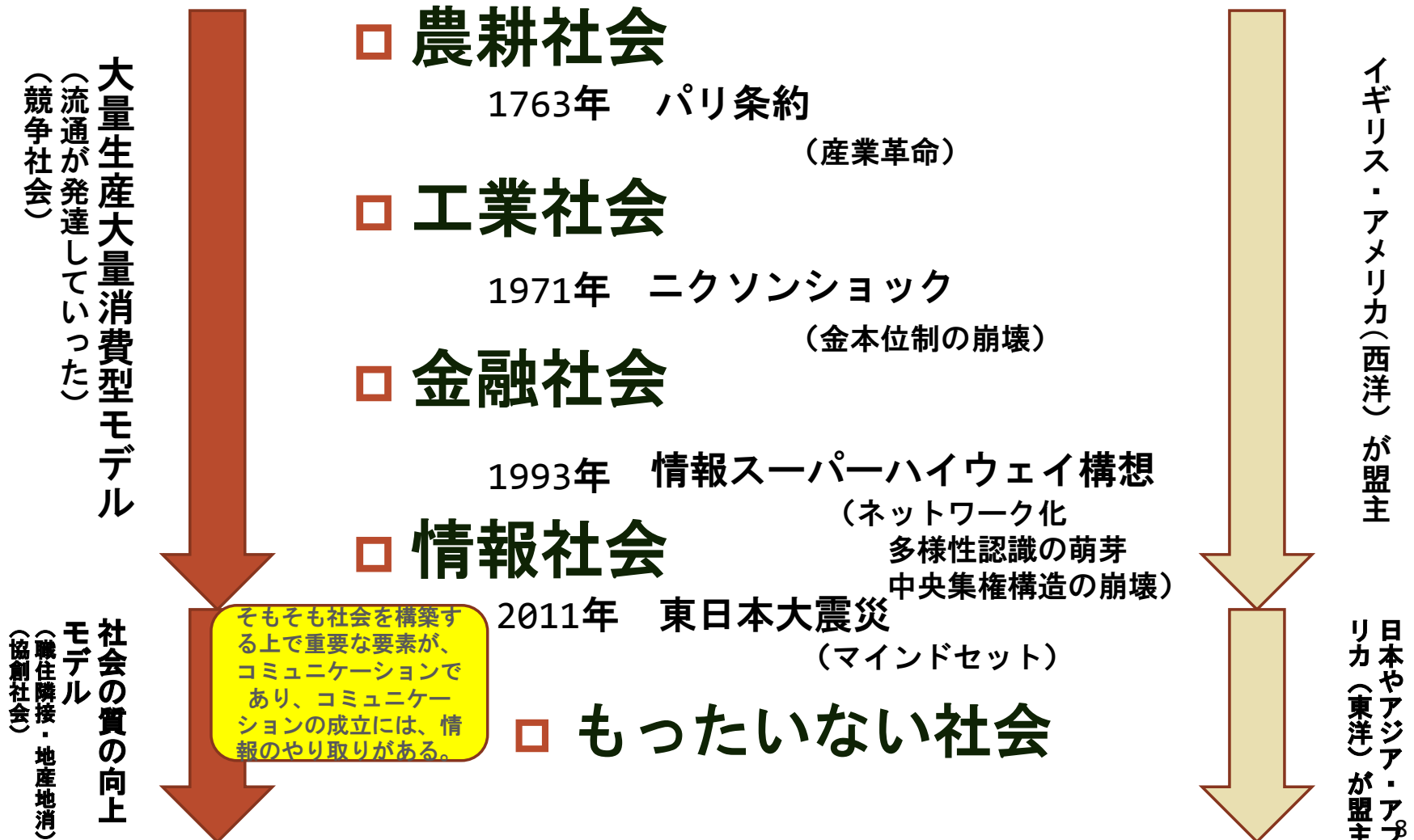
【これから考えるべき形】

【生活の豊かさ＝資源量×労働量】

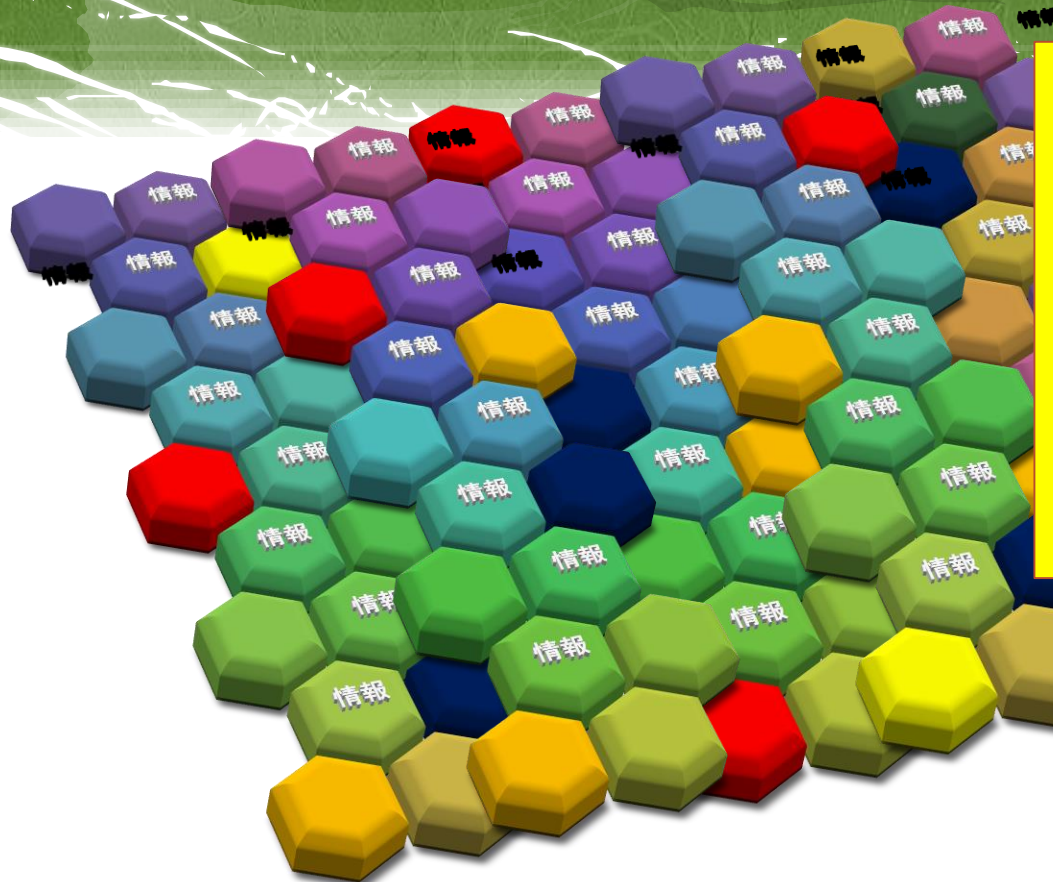
変化に対応した人の工夫の量
（働き方の変化）
（やりがいの増加）

次は 教養が低いままでの金融社会・情報社会の失敗

日本社会の変遷



情報社会で起こっていること



情報が拡がり、情報（無形財）の価値が高まったため（ウソの情報も多数存在するからこそなおさら）、物々交換（有形財の経済）が成立しなくなってきた。（財の本質が忘れられる。）
しかし、人は形あるもの。有形財の経済が成立しないということは、人類の存在が成立しなくなる。

【問題点】

肉体的には楽で、仮想財を生み出しやすいサービス産業従事者に雇用が流れる。
また、価値ある情報が権威者に集まりやすい。

情報学における情報は、エントロピーの法則により、拡大し、一般化していく性質を有する。また、その情報は、伝える人の思いも加えられるため、真実とは違う色（思い）が加えられた形での情報として拡散される可能性が高い。

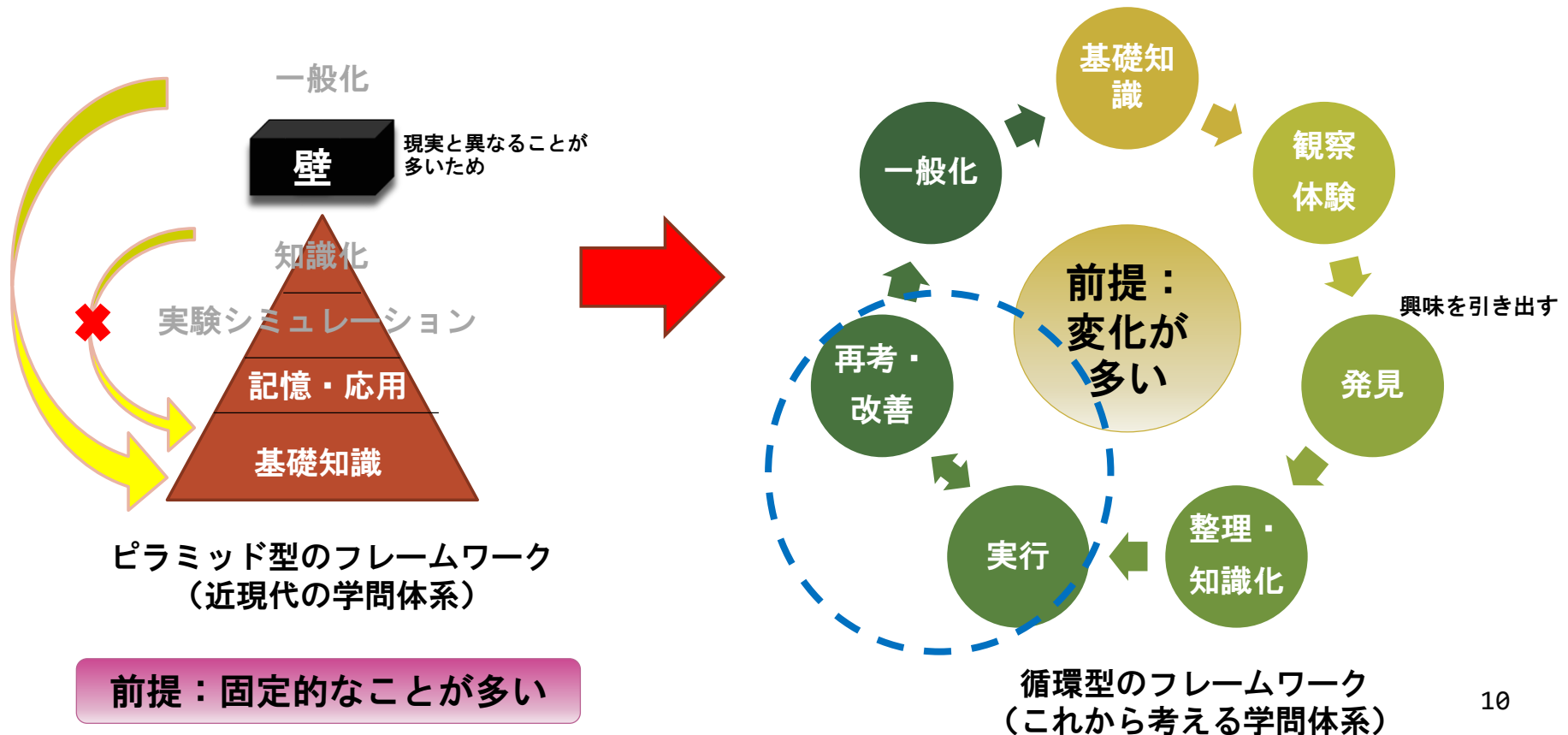
伝言ゲームは、成功しない。

もし、真実にたどり着きたいなら、傾聴・観察を重ねることにより、伝え人の思いに気付き排除した後の、生の情報を手に入れ、シンプルに思考する

次は 社会変化非対応教育学の失敗

失敗や問題点を見つけ、改善に

- 学問の本質は、自然界に適応し、身の丈にあった財（富）を生み出すことにある。



21世紀型社会を考える上で

□ 循環型フレームワーク

【自然界（自然科学）への適応】

+

□ プロジェクトマネジメント

【身の丈にあった財の創出】



21世紀型社会（文化）を考える学問
（社会変化対応型学問体系）

(参考) プロジェクトマネジメントとは

PMBOKガイド第5版は、47個のプロセスを、幅広いプロジェクトに適用可能な5個の基本的なプロセス群と10個の知識エリアとに分類する。

5個のプロセス群は次の通り；

1. プロジェクトの立上げプロセス群 (Initiating Process Group)
2. プロジェクトの計画プロセス群 (Planning Process Group)
3. プロジェクトの実行プロセス群 (Executing Process Group)
4. プロジェクトの監視・コントロール・プロセス群 (Monitoring & Controlling Process Group)
5. プロジェクトの終結プロセス群 (Closing Process Group)

10個の知識エリアとは次の通り；

1. プロジェクト統合マネジメント
2. プロジェクト・スコープ・マネジメント
3. プロジェクト・タイム・マネジメント
4. プロジェクト・コスト・マネジメント
5. プロジェクト品質マネジメント
6. プロジェクト人的資源マネジメント
7. プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント
8. プロジェクト・リスクマネジメント
9. プロジェクト調達マネジメント
10. プロジェクト・ステークホルダー・マネジメント

次は 目標未設定コミュニティづくりの失敗

これからの文化を考えるために

今まで

どんなコミュニティにしたいのかを決めずに、地域再興という、真っ先に観光客誘致で動き出す現状

これから

資源の発見

(立ち上げ)

無形財を中心に考える

【無形財】

サービス財 = コアファンクション + 付帯要素
コンテンツ財 = 媒体物 + コンテンツ

価値

価値

再考・改善

(終結)

プランニング

(計画)

身の丈を計る

【産業構成バランス】

- ① 第一次産業による生産量で、地域内で賄える人数を規定する。
- ② その人数に従い、第二次産業・第三次産業従事人数を規定する。

* 但し、第二次産業・第三次産業には、江戸時代の庶民の生活を参考にし、お互い様社会をベースに考える。

合意形成

(コントロール)

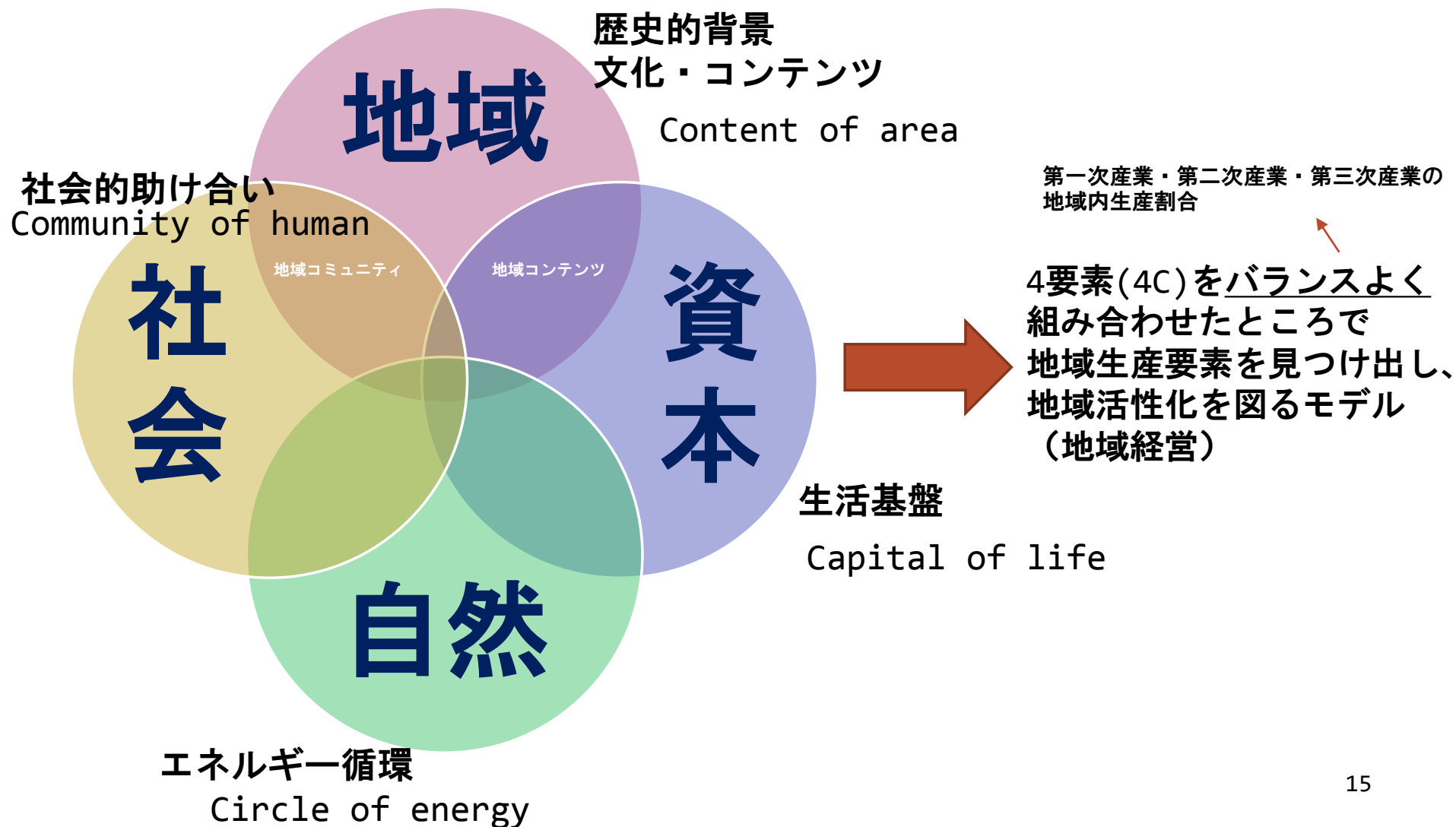
実行

(実行)

資源発見に活用できる資源（要素）

- **地域** ● **歴史的背景 文化 コンテンツ**
(Content of area)
- **社会** ● **社会的助け合い**
(Community of human)
- **資本** ● **生活基盤**
(Capital of life)
- **自然** ● **エネルギー（＋循環）**
(Circle of energy)

地域資本自然社会共生モデルとは



地域経営とは

- **地域経営の目的：地域内産業生産バランスを高め、地域内循環を豊かにし、地域内の住民幸福度を高めること。**

地域経営の目標：地域内産業の生産要素を、有形・無形の経済物に変換し、これによって価値を増殖し、効用を生成する。

第一次産業 — 自然に直接働きかける産業。

自然生産：自然界からの採集・狩猟・漁労等。

第二次産業 — 第一次産業が採取・生産した素原材料を加工して価値を作り出す産業。

市場生産：実体物の製造。

第三次産業 — 第一次産業にも第二次産業にも分類されない産業。

効用生産：価値の増殖による効用の生成・増大。

地域再興を考える上でのステップ①

- 対象者へのヒアリング調査
(地域資源の洗い出し)



社会デザイン4C分類への落とし込み

調査日

調査対象(年齢)

(地域)

地域: 歴史的背景・文化・コンテンツ (Contents of area)		強み	弱み	資本: 生活基盤 (Capital of life)	強み	弱み
域内	1			域内	1	
	2				2	
	3				3	
域外				域外		
自然: エネルギー管理 (Circle of energy)		強み	弱み	社会: 社会的助け合い (Community of human)	強み	弱み
域内	1			域内	1	
	2				2	
	3				3	
				域外		

たたき台の作成

社会デザイン4C分類サンプル

秋田県湯沢市院内地域

地域： 歴史的背 景・文 化・コン テンツ (Contents of area)	強み	弱み	資本： 生活基盤 (Capital of life)	強み	弱み
域内	銀山、ジオパーク、名所、えびすだわら、関所、山小屋、かつて銀生産日本一、かつてお祭りが盛ん、自然の遊び場、方言がない、気位が高い、貧乏くさいところを見せたくない、学力が高い、高等教育に進みたい人が負い	落ち武者、よるけ、客として育ってきた	域内	雄物川に銀、羽州街道、院内駅、特急が止まっていた、交通もいい、介護施設を作った、子供の頃に雪はいいものと思っていた、	5年で銀山は荒れた、山の人口が減る、病氣治療間に合わず、煙の害、食堂が少ない、製材所など働く場所がない、空き家が多い、子供の交流の場がない、タクシーが駅にない、介護施設がなかった、他から人を受け入れる状態ができていない
域外	元気村、県有形文化財	戊辰戦争、	域外	高齢者の年金の手取りがすごい、湯沢市は人が少ないが求人は多い	海外の銀が安い、子育て環境が整っていない、雪が多い、小学校がなくなる、今の子は勉強や部活に忙しい、
自然： エネルギー循環 (Circle of energy)	強み	弱み	社会： 社会的助け合い (Community of human)	強み	弱み
域内	わらびもち、湧水が豊富、水路が有力、山を使った食、山菜はある	木をたくさん切っていた	域内	お酒、全国から人が来た、師弟関係で技術を継承、友子（社会保障）、外から来る人への拒否反応は特にならない、人づきあいが濃い、差別がない、農村のコミュニティとは違う、	若い人の考え、今の子供が院内に愛着があるかわからない、祭りの継続ができない、高齢者中心のお祭りになっている、
域外		過疎だと思っているのは行政、洪水もある、	域外	院内の住民構成は他県から来る人が多い	子供に自慢できるものがほしい



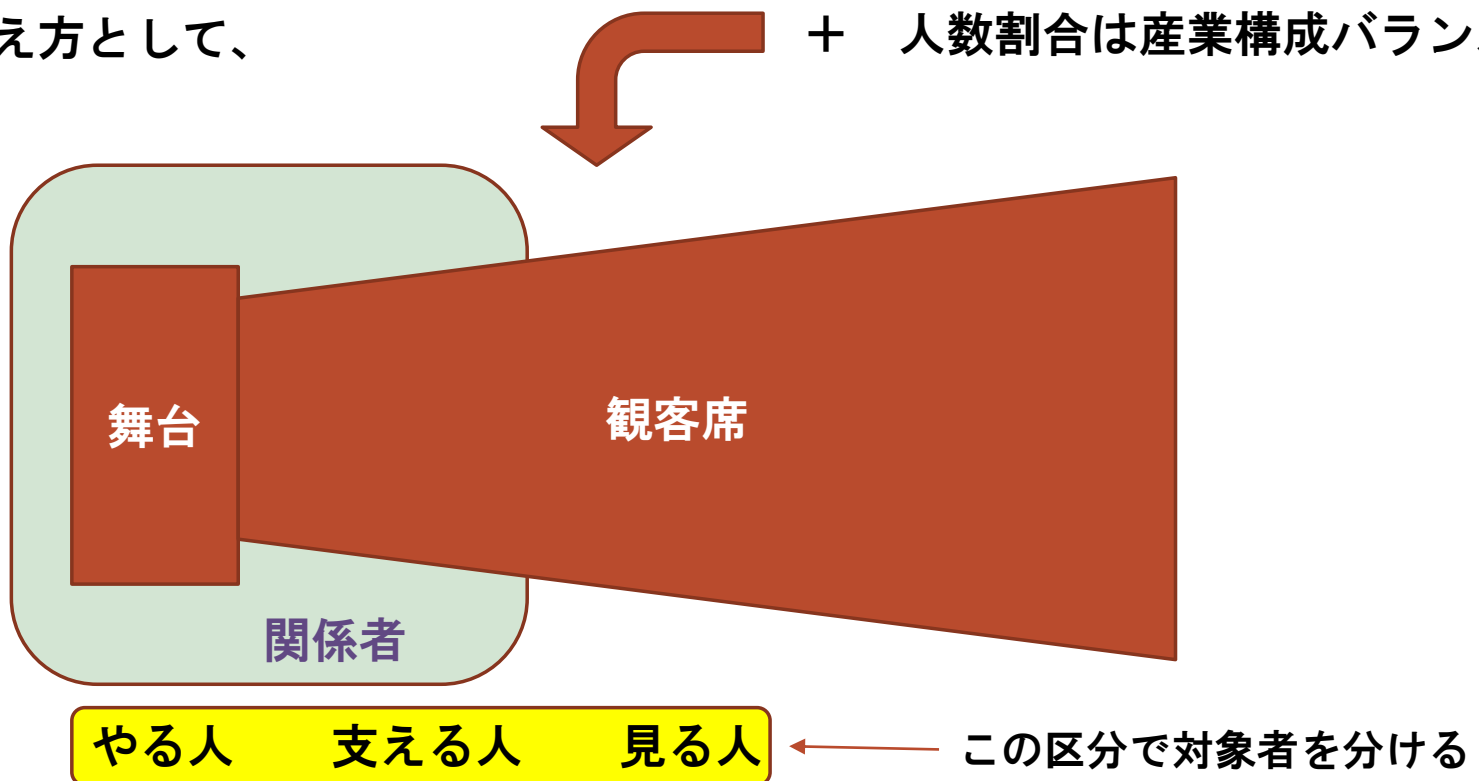
『総務省 過疎集落等自立再生対策事業
「街なか再生事業」委託研究報告書』
(2015年3月) より

(セカンドステップ) プランニングのはじめに

□ 対象者（呼びたい人）を詳細に。

考え方として、

+ 人数割合は産業構成バランス



(参照) サービス劇場フレームワーク

(セカンドステップ) プランニングのはじめに

地域経済主体の関係性の把握

地域づくりのための
3ステップ

来訪



再来訪



移住・定住

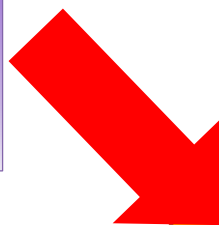


行動調査

イベント

食

リユース



行政

地域づくりを
合言葉とした協力関係

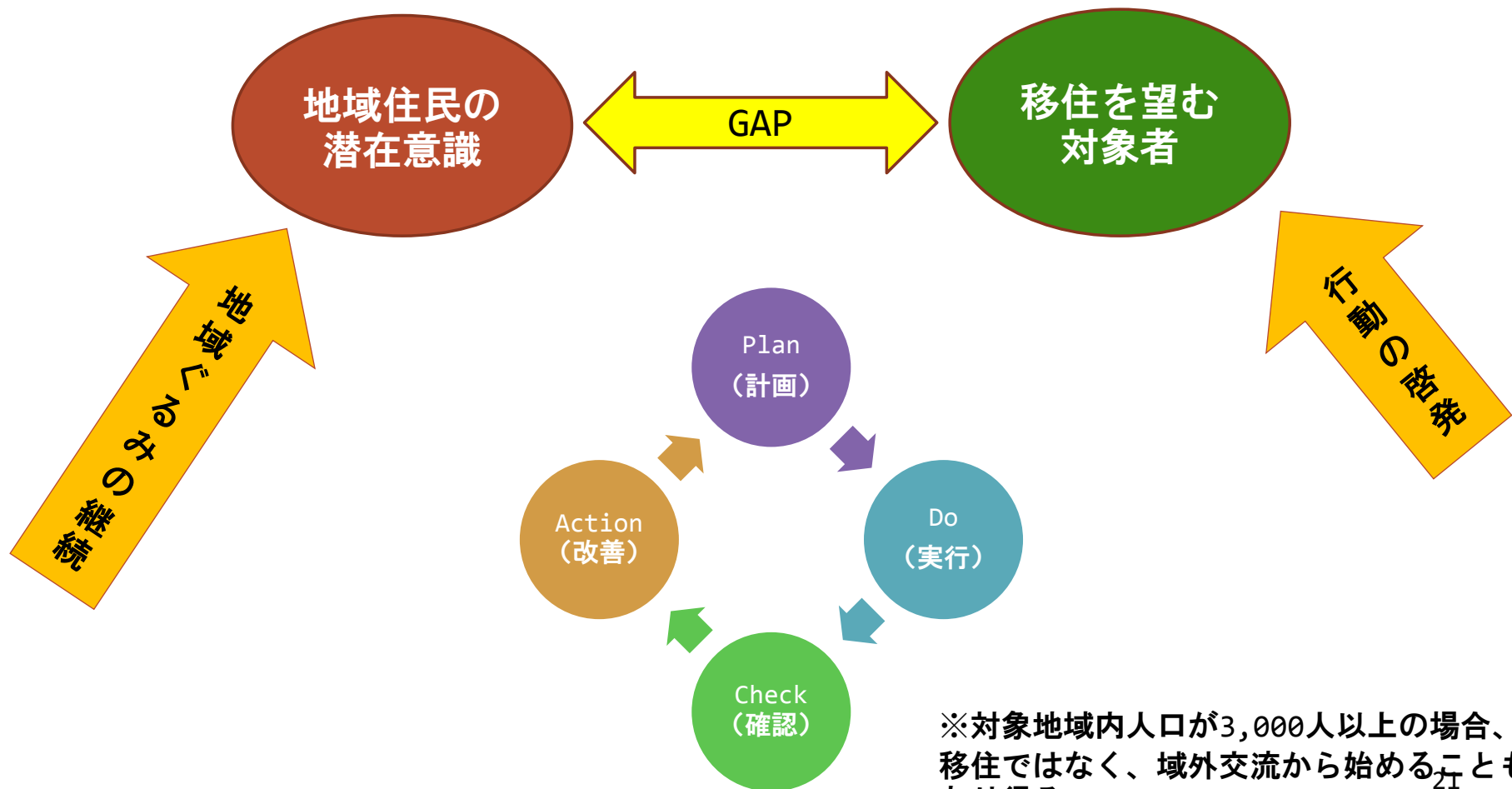
住民

組織

地域再興を考える上でのステップ②

- 社会デザイン4C分類に基づく、アンケート調査（地域移住に関する影響度）

※対象地域内人口が3,000人以下の場合



※対象地域内人口が3,000人以上の場合、
移住ではなく、域外交流から始めることも
あり得る。

地域再興を考える上でのステップ③

地域社会デザイン学の基本的な考え方：地域資源を適材適所で配置し、
地域住民の生活環境を整備する。



- 具体的なプラン（定義再考を含め目標を定め）を考える
過疎地の問題であれば、人を何人増やすか、
どんな地域資源を使うか、
どんな産業構造にするか、
地域の特徴を生かした形とは、とか
- 関係者の合意を得る
関係者は、どんなプランなら合意を得やすいか、
- 具体的実行計画をたてる
長期的視点（100年くらい）と短期的（3年）・
中中期的（5～10年）中期的（10～30年）視点で

これからの学問（自然社会から考える）

ベースとなる理論は「成長の限界」

ここにあるのは、日々刻々と環境は変化する。
（諸行無常）

□ 失敗、間違い、疑問をみつけ（負の要素から目を背けない）

（例）経済（社会）の間違い、教育方法の間違い、地域づくりの間違い、
生き甲斐がない、結婚したまらない、結婚できない、
人が少ないところに住みたまらない、勉強したくない、、、

□ その改善（解決）策を考えだし、（前向きに）

原理原則から考える（自然の法則から）

（例）どうしてお金がほしいと思うのか、
どうして家族を持たないといけないのか、
どうして学校が必要なのか
どうして地域活性化が必要なのか、、、

□ 実行する

そのためにどうするのか？どうしたらいいのか？

地域活性化モデル事例 (生活協同モデル)

栃木県日光市足尾地域 (日光スマートシティ構想)

中心的組織：地元中学



地域大規模太陽光発電



地域大規模水力発電

地域大規模発電スペース

電力会社へまとめて売電

送電



送電

地域特性各戸設置発電

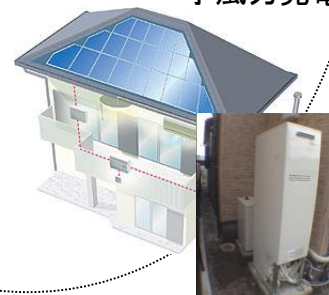
すべて無償貸与形式。イメージは江戸時代の長屋。各戸には地球熱システムが完備。夏は涼しく、冬は暖かい、自然の熱を利用。



小水力発電



小風力発電



熱源発電

決済

地域集電所



利用可能提携商店街、医療介護界 (三養会システム) の運用)



住人決済



電気コミュニティーカー

一家に一台ではなく、地域に数台。電気充電は、バッテリー交換式。また、除雪機能脱着可能なスタイル。

地域活性化モデル事例（教育研究モデル）

秋田県湯沢市院内地域（いんないスマートバレー構想） 中心的組織：地元NPO

